Ｈ．Ｓ．　英語英文学科・４年次

Ｉ．留学レポート

①協定留学を目指した理由

協定留学を目指した理由はとても単純でした。中学生の頃から英語が好きだったので、大学生の間に必ず長期留学をしようと意気込んで入学したからです。しかし 1、2 年次は大好きだった部活に専念したため、気が付けばもう 2 年次の冬でした。その頃から本格的に協定留学について考え始め、4 年次の春から協定留学をすることを決心しました。この時期を希望した理由は、教職課程を修了するためです。3 年次または 4 年次どちらで留学しても、1 年間科目履修生として大学に通う必要がありました。よって、教育実習以外の全ての単位を 3 年次までに取り終えた方が後から教育実習 1 本に集中出来て良いと思ったからです。
また、カナダに決めた理由は訛りの少ない英語を習得できると耳にしたことがあったからです。

②留学を目指してから出願までの英語学習方法

まずは協定留学の出願に何のスコアが何点必要なのか調べました。すると、IELTS で 5.5 点以上取らなくてはいけないことが分かりました。勉強は、2 年次の冬に IELTS の市販のテキストを購入し、Reading、Listening、Writing の問題構成に慣れるところから始めました。Reading と Listening は先に質問文や問題文に目を通すと解きやすいですし、Writing は Essay の形（Introduction → Body → Conclusion）に則って書くのがポイントだと思います。Speaking は勉強方法が分からなかったので、使えそうなフレーズをテキストからいくつかピックアップして覚えておくぐらいで、ぶっつけ本番で挑んでいました。合計 4 回受験し、4 回目のラストチャンスでスコアに達することが出来ました。

③留学決定から出発までの準備期間

留学合否発表が 11 月上旬にありました。その後、たくさんの書類を提出しなくてはならなかったので１つ１つ確実に、そして何事も早めの行動を心がけました。クリスマス頃に Mount Allison University や語学学校の入学許可証が届き、実際に手に取った時にワクワクしたのを覚えています。
私は、紹介して頂いた業者さんにビザ申請をお願いしたので、年明けすぐに申請に必要な書類をメールで送付して頂きました。パスポートのコピーや銀行の残高証明などの書類の郵送を経て、約 1 週間で許可証が下りました。
春休みは、友達と会ったり、旅行に行ったり、好きな映画を英語字幕で見たり、大好きな歌手のコンサートに行ったりと最後の最後まで遊んで過ごしました。よって、必要なものを揃えておき、荷造りは出発前日に一気に終わらせ、あっという間に出発！！！という感じでした。夏服一式は季節の変わり目を見計らって日本から送ってもらいました。

④現地到着後

バンクーバー空港に到着後、荷物を受け取り移民局へ。長い列が出来ていたので、合計約 2

時間かかり到着口に出られました。そこに自分の名前が書かれた紙を持った送迎の方がいらっしゃったので、やっとホッと一息つけました。私の他にもう 1 人学生さんがいたので順番にホームステイ先まで送ってくださいました。空港からステイ先までは車で 40 分ぐらいかかったと思います。
土曜日の夕方にステイ先に到着しました。翌日の日曜日はホストファミリーに連れられ教会の礼拝に行ってきました。初めての礼拝だったので見よう見まねで立ったり跪いたりと、とても興味深い経験になりましたし、ファミリーにとって宗教は生活の一部なのだなと感じました。その後、シスターが近所のスーパーに連れて行ってくれたのでシャンプーなどの消耗品を買い揃えることが出来ました。
明くる日の月曜日はいよいよ語学学校初日。マザーがバスや電車の乗り方を教えながらダウンタウンにある学校まで送ってくれました。学校に着いてからはプレイスメントテストを受け、オリエンテーションがありました。内容は、学校内のルールやバンクーバーでの暮らしにまつわる注意点などでした。その後、学校の先生 2 人とオリエンテーションを受けた生徒全員（この日は 10 人ぐらいでした）でダウンタウンを散策し、親睦を深めようとランチをしにハンバーガー屋さんに連れて行ってもらいました。放課後はエージェントでオリエンテーションを受けました。ダウンタウンの地図を参照しながら、危ないエリアやおすすめのお店、レートの良い両替屋さんなどを教えていただきました。バスとスカイトレインは同じ会社が経営しているためマンスリー定期は 1 枚で両方がカバーされます。月末のみコンビニや薬局で購入でき、エリアごとに金額が決まっています。

⑤語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

バンクーバーのダウンタウンにある語学学校に 4 か月間通いました。最寄り駅から徒歩約 5 分のとても便利な所にある学校でした。授業は 20 人ぐらい入る教室で受け、休憩やランチタイムは広めのラウンジで過ごしました。そのラウンジには冷蔵庫やレンジはもちろん、ちょっとしたお菓子の自販機もありました。
バンクーバーで電車やバスに乗っていると本当に色んな国のバックグラウンドをもった人達に出会います。移民がたくさんいるので学校のすぐそばにある大きなストリートには国際色豊かなレストラン（日本、韓国、中国、メキシコ、タイなど）が数多く揃っていて、放課後や休日に友達とレストラン巡りをするのが楽しみの 1 つでした。また、バスで 10 分ぐらいのところには、日本では考えられないくらい広く、森のように大きな木がたくさん生えている Stanley Park という公園や夕日がとっても綺麗な English Bay というビーチがあります。English Bay では海の目の前に芝生が広がっているので、ランチを持って行ってピクニック、寝転がって日向ぼっこ、日が沈むまでお喋りして夕日をゆったり眺める、夏には花火大会などたくさんの思い出があります。自然と共存している都市なので心も身体もリラックス出来ると思います。

◆授業内容、課題、試験

語学学校では 2 つのコースを受けていました。前半の 2 か月間は Intensive English コース、後半の 2 か月間は UFC コースという大学準備クラスです。Intensive English ではテキストを進めていく一般授業と映画やコメディードラマを通して英語を学ぶ選択授業を取りました。どちらの授業も生徒に英語を話してもらう為に、クラスメイトと話し合う時間が多く設けられ、生徒主体の授業が展開されていたように思います。先生はパワフルな方、ジョークが大好きな方、アドバイスをたくさん下さる方、静かに面白い事をボソッと言う方とタイプは様々だったので、先生によって授業の雰囲気がガラッと変わるのも面白かったです。また、各教室にはホワイトボード、パワーポイント、インターネットなど授業に必要なツール全てをカバー出来る電子黒板が備え付けてありました。
UFC コースでは Reading & Writing（RW）のクラスと Listening & Speaking（LS）のクラスがありました。RW のクラスでは色んなトピックに分かれたテキストを読み進めながら新出単語を確認したり、1000words の essay を書いたりと Intensive English の頃に比べると勉強量が増えたと思います。LS のクラスではプレゼンテーション力を身に付ける為に、プレゼンに使える表現やテクニックを教わり、最終的には 1 人 15 分程のプレゼンが出来るように毎週月曜日にプレゼンをしました。そのお蔭か、人前で話す事に慣れることが出来たと思います。また、レクチャーを聞きながらメモを取る練習も行いました。初めは英語を聞き取るのに精一杯でメモなど取れませんでしたが、回数を重ねていくうちに手を動かしてノートを取ることに慣れていきました。両方とも中間、期末試験があり、RW は文章を読んで質問に答えるものと課題文の要約、LS は Listening のテストという感じでした。
UFC が始まってからは休憩時間の 15 分間しか Intensive English のクラスメイトに会えなかったので初めはとても寂しかったですが､UFC のクラスメイト 9 人とも徐々に仲良くなり、ホームパーティーをしたり映画に行ったりとたくさんの思い出が出来ました。

⑥正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

大学はサックビルという小さな町にあります。バンクーバーに比べると本当に田舎で、大きなショッピングモールはモンクトンという隣町にしか無く、バスまたはタクシーで片道 30 分ぐらいかかります。元々田舎だと聞いていて「遊ぶ場所はゼロや！何も無いんや！」と覚悟して行ったので、こじんまりしている中に小さな発見がたくさんあったのは嬉しかったです。例えば、大学の寮から歩いて 5 分ぐらいの所に手作りのチョコレートを売っている小さなお店がありました。ここのチョコレートは少し高めですが本当においしくてお気に入りでした。他にはダウンタウンに新しくオープンした古着屋さんがあり、たまに物欲を解消するために行っていました。小さなダウンタウンでしたが韓国料理屋さんやパブ、可愛い雑貨屋さんもあり散策するのは楽しかったです。日常で使う消耗品はスーパーや百均で買えましたし、特に困ったことはありませんでした。
大学内外共に自然に溢れたのどかな所で、大学から徒歩 10 分ぐらいの所にある公園は夏秋冬で景色が変わるのでおすすめです。キャンパスはそんなに大きくないので移動は楽でし

た。食堂のご飯はバイキング形式で、生野菜もちゃんと食べられたので嬉しかったです。9 月はカラッと暖かいですが 10 月に入ると 10 度前後と肌寒くなってくるので体調管理には気を付けていました。

◆履修科目

私は英文科なので英文学の授業を取ってみたかったのですが、その取りたかった授業が冬学期にしか開講されていなかったので、履修登録期間を目一杯使って自分の興味のある授業を 3 科目選びました。

・Introduction to Anthropology (ANTH1011)

人類学の授業は取ったことが無かったので興味本位で履修を決めました。1 年生向けの講義形式の授業で、200 人程の規模でした。言語、様々な民族の文化やその文化圏での社会の成り立ちなどを、テキストを用いて人類学の視点から幅広く学びました。

・Introduction to Art History (FINH2101)

この授業は、3 つ目の履修科目を何にしようか悩んでいた登録期間最終日に、たまたま受けてみたらとても面白かったので履修しました。2 年生向けの講義形式の授業で、70 人程の規模でした。中世後半からルネサンス、バロック、ロココ、印象派などの時代を経て現代までの美術史について作品を見ながら学んでいきます。

・Introduction to Music (MUSC2001)

小さい頃から音楽を聴くのも楽器を演奏するもの大好きだったので履修しました。こちらも 2 年生向けの講義形式の授業で、30 人程の規模でした。中世から現代までの音楽を実際に聴きながら作曲者や時代背景と関連させて学んでいきます。

◆授業、レポート、定期試験

・Introduction to Anthropology

週 3 回授業があり、1 回の授業で 1 チャプターずつ進むので授業の進捗がとても早いです。予習でテキストを読んでも専門的な単語が多く内容が頭に入ってこなかったので、授業前はそれらの単語の意味を調べておき、授業後に復習をたっぷりすることで単語とチャプターの内容をリンクさせるよう心がけました。

【成績評価】

・Weekly クイズ（オンラインで全て選択問題）

・中間試験×2（選択問題と Short answer）

・期末試験（選択問題と Short answer）

中間試験、期末試験共に選択問題は主に授業スライドから、Short answer は主にテキストから出題されます。先生が事前に範囲を指定し、更に出題箇所のヒントをくれます。Short answer は 3 つの質問から 2 つを選んで essay 形式で書くというものでした。

・Introduction to Art History

週 2 回授業があり、1 週間で 1 チャプター進みます。中世やルネサンスなど、各々の時代に流行った考え方や絵画に隠された意味を読み解いていきます。

【成績評価】
・Visual analysis×2
・リサーチエッセイ
・スライドテスト×2（中間と期末）
Visual analysis は 1 枚の絵を見て、自分なりに絵を分析し、どんな意味があるのか解釈する課題です。
リサーチエッセイでは数枚の絵を自分で選び比較し、歴史的背景や構成などの面から分析することで、それらの絵にどのような共通点、相違点があるかを見つけるというものです。
スライドテストは作品名、作者名、時代名を答え、それぞれの visual analysis を書くというものでした。
・Introduction to Music
週 3 回授業があり、1 週間で 1 チャプターずつ進みます。音楽を構成する 7 つの要素（メロディー、リズム、ハーモニーなど）を意識して音楽を聴くと、時代によって音楽が変化し、使われる楽器も様々であるということがよく分かり、本当に興味深い授業でした。先生がとても優しく可愛らしい方（男性）だったので、この授業が 1 番楽しかったです。
【成績評価】
・Weekly レポート
・Listening クイズ×3
・Live の感想文×2
・中間試験
・期末試験
・個別プロジェクト
Live の感想文は、大学内にあるコンサートホールで行われる Live に行き、演奏された曲についてレポートを書きます。個別プロジェクトでは、自分の好きな曲を、音楽を構成する要素に注目して分析していきます。私は魔女の宅急便の挿入歌を選んで、取り組みました。

⑦クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブ活動には参加していませんでした。学内にあるジムで週に 2 回行われているズンバに 2 度だけ参加したのですが、これが本当に良い運動になり、心も同時にリフレッシュ出来ました。

⑧現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

【語学研修期間】
3 月に入ってすぐくらいにホームステイ先のファミリー情報を受け取りました。私のホストファミリーはフィリピン系で、マザーとシスター（2 歳年下）の 2 人家族でした。2 人共初めからフレンドリーだったので安心してホームステイを始めることが出来ました。また、ステイしているのが私だけだったのでファミリーとの会話も気兼ねなく出来て良かったです。ご飯はいつもマザーが作ってくれました。料理が大好きな人で色んな国の料理（フィ

リピン、タイ、日本、ベトナムなど）を作ってくれたので今日はどんな料理かな？といつも楽しみでした。2 人共日本食が好きだと言っていたので、1 度日頃の感謝をこめてお好み焼きを作りました。私の横でマザーが作ってくれたトンカツとお好み焼きの日本食ディナーは本当に忘れられない良い思い出です。洗濯は、アパートだったこともあり、週に 1 回でした。門限が無かったので帰る時間は本当に自由でしたし、シャワーの時間も決まっていませんでした。ただ、当たり前ですが自分の部屋やリビング、トイレなどはいつも清潔に使おうと心掛けていました。

【正規科目履修期間】

大学では第 1 希望だった Hunton という寮で暮らしました。小さくてアットホームで、廊下やキャンパス内ですれ違う時に同じ寮の人には Hi!と声を掛け合うようなフレンドリーな寮だったので、私も積極的に挨拶しようと思えました。平日は勉強に集中するのでとても静かですが、金曜日の夜から休日にかけては皆部屋でパーティーをするのでうるさかったです。私はどんちゃん騒ぎをするのがあまり好きではないので、自分の部屋で同女の後輩と一緒に楽しくお喋りしたり、映画を夜通し観たりして過ごしていました。

⑨長期休暇の過ごし方

語学学校が 7 月末に終わり、大学の入寮日が 8 月末だったので約 1 か月間お休みがありました。私は、伯父の友人夫妻がアメリカのミシガンに住んでいるので、そこにホームステイさせてもらいました。中国人の旦那さんとフィリピン人の奥さんの夫婦だったので、アメリカやそれぞれの母国での文化の違いや教育制度などについてたくさん話しこみました。また、4 泊 5 日のドライブ旅行ではミシガン湖をぐるっと回り 5 つの州に連れて行ってもらいました。この旅行が無ければ想像出来なかったであろう、アメリカの色んな姿を見ることができ、本当に貴重な体験になりました。

また、夏休みという事で両親がカナダに来てくれて一緒にナイアガラの滝に旅行にも行きました。真っ青な空と壮大な滝、それに架かるダブルレインボーの景色は一生忘れないでしょうし、カナダという国に行って良かったなと心から思えた旅でもありました。人生で 1 番濃い夏休みを過ごせたと思います。

そして、大学が終わって帰国する前はニューヨークへ一人旅。トロントからニューヨークへ行く時の夜行バスが予定より 1 時間も早く出発したので、本当にたどり着けるのか心配で心配で眠れませんでしたが、無事到着して一安心。ずっと観たかったブロードウェイミュージカルと、ニューヨークに行くからには絶対に聴かないと！思っていた、黒人さんによる生のゴスペルには本当にしびれました。クリスマスシーズンのキラキラしたニューヨークをたっぷり満喫出来て良い締めくくりになりました。

⑩留学期間中の就職活動の取り組み

冒頭でも書いた通り、私は科目履修生としてもう 1 年大学に通う事になっているので、就職活動は帰国してからするつもりでした。しかし、11 月の後半にアメリカのボストンでボストンキャリアフォーラムという就活イベント行われると聞き、同女の後輩と行ってきま

した。200 社ぐらいの日本企業が会場で説明会を行っていたり、事前に書類選考に通った学生と面談をしたりと、就職活動の雰囲気をこのイベントを通して味わうことが出来ました。また、将来ぜひ入社して働きたいと思える企業にも出会えたので本当に参加して良かったなと思います。

Ⅱ．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

楽しかったことは本当に数えきれないほどたくさんあります！バンクーバーでは Stanley Park で海沿いのサイクリングや Outdoor cinema、多国籍レストラン巡り、English Bay の花火大会、Deep Cove でカヤック、沢山の誕生日パーティー、大好きだった Tim Hortons でのお喋り、なでしこジャパンの試合観戦、海外アーティストのコンサートなどなど。1 日 1 日が楽しかったですが、最も心に残っているのは休みの日に遊ぶ場所を決めずにクラスメイトで仲の良かった韓国人の女の子とスペイン人の男の子と集まって、何気なく English Bay に行き、3 人で何時間も人生について語り合った日の事です。生まれ育った国は違うのに、英語を使って互いに話が出来るって凄く嬉しい事だなあと心がジーンとしたし、自分の英語に自信を持とうと思うきっかけにもなった 1 日でした。

②留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学全体を振り返って 1 番つらかったのは語学学校の授業初日です。授業が始まり先生がクラスメイトに質問を投げかけると、皆英語が流暢に話せすぎて本当にショックで。クラスメイトとディスカッションをする時に、言いたい事を英語で伝えられず、会話が続かない悔しさで心がバキバキになりました。でも、来たばかりなのに出来るわけがない！と開き直ってからは、もっと話して練習しよう！とポジティブになり、英語を話すことが徐々に好きになっていきましたし、友達もだんだん増えていきました。

大学での勉強はもちろん大変でした。ですが、自分の好きな科目をネイティブと一緒に英語で受けてるんや！と思うとワクワクしましたし、ネイティブの何倍も時間はかかるものの、絶対良いものに仕上げようと常に意識して課題に取り組んでいたので、その過程は自分にとって本当にプラスになったなと実感しています。

③文化・習慣の違いなどで驚いたこと

文化の違いで驚いたことは大きく 2 つあります。1 つ目は授業に取り組む姿勢の違いです。語学学校で授業を受けていた時に、ヨーロッパやサウジアラビア、南米出身のクラスメイトは自分の思った事を自分のタイミングで口々に発言していました。そして、彼らはたとえそれが間違っていてもいつも堂々としていました。私はそんな風に自分はこう思うと自信を持って堂々と発言できる彼らの姿勢をかっこいいなと思いましたし、自分もそんな風になりたいと思いました。2 つ目はスキンシップの違いです。挨拶のハグが当たり前の文化圏から来ている友達が多く、カナダもその 1 つだったので、友達とお別れの時や嬉しくて舞い上がった時など感情が大きく動く時はいつもハグをしていました。お互いにギュッと

すると安心感があり、とても良いものですよ。
あと、単純に驚いたことは、カナディアンはある程度強めの雨でも傘を差しません。日本なら小雨でも皆差したがると思いますが、カナディアンはただフードをかぶるだけで全身びちょびちょになっても気にしていない様子でした。なので、私もカナディアンスタイルでフードをかぶって雨をしのいでいました。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

①留学先大学の良かった点、悪かった点

【良かった点】
教授との距離が近く、質問に行きやすい環境が整っているところです。教授はいつも親身になって答えて下さいましたし、留学生としてはその対応が本当にありがたかったです。
また、食堂にも満足していました。土日は手抜きになりますが、基本的には美味しいメニューが日替わりで出てくるので良かったかなと思います。チョコチップ入りパンケーキ、チョコソフトクリーム、さつまいものフライドポテトがお気に入りメニューでした！
【悪い点】
初めは楽しいのですが、慣れてくると遊ぶ所が無いということぐらいかと思います。

②日本から持っていって、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

自分のパソコンは絶対必要だと思います。語学学校にはパソコン室があるものの、家で課題をする時は自分のパソコンが無くては出来ません。また、大学の課題をする時も自分のパソコンを使っていました。洗濯ネットはあると便利でしたし、歯ブラシもやたらでかいのしか売ってないので持って行った方が良いかと思います。それから、風邪を引いた時の為に日本で買ってきたのど飴があると気持ちが落ち着きました。変圧器や変換プラグは必要ありませんでした。

③語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力は間違いなく向上したと思います。TOEIC はまだスコアが分からないので数値的な事は不確かですが、英語を聞いた時に英文が頭にスッと入ってくるようになったので、確実にリスニング力は養われたと思います。また、初めの頃はブチブチと単語ごとに切れてしまっていた英文が、今では繋がるように英語を発音出来ていると実感出来るまでになりました。もちろんネイティブレベルには到底及びませんが、英語を話す事に対しての怖さや不安が大幅に無くなりました。
そして、留学前に比べて失敗を恐れずに何でも挑戦するようになりましたし、たとえ失敗しても焦らずに落ち着いて行動できるようになったと思います。この留学を通して語学面、精神面においても成長出来ました。

④これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学しようか迷っているあなた！！人生は 1 度きり！！ROCK YOUR SOUL です！！チャレンジってとっても楽しい事ですよ！！

Ⅳ．将来の目標

①今後の進路、将来の目標・夢

今後も英語と関わっていきたいので、海外支店をもつ企業や海外と繋がりのある企業で活躍していきたいと考えています。また、ゆくゆくは海外で仕事がしたいなと思っています。

Ⅴ．写真

English Bay で人生を語り合った時に撮った 1 枚。リアクションが可愛くていつも元気な韓国人の Sara と陽気なムードメーカーSalvi と共に。この 2 人がいたから Intensive English は頑張れたと言っても過言ではない！

何度かお邪魔させてもらったホームパーティーでの 1 枚。Heads Up!というゲームで盛り上がったり、少し変わった UNO をやったり、ご飯を食べたり、お菓子をつまんだりと終始穏やかなひと時を過ごせました。

M. N.　英語英文学科・３年次

Ⅰ．留学レポート

①　協定留学を目指した理由

留学に憧れるようになったきっかけは中学生の頃、バルバドスからやってきた ALT との出会いです。言葉や、目、肌の色が違っても英語を使ってコミュニケーションがとれる事に感動し、もっともっと話せるようになりたいと強く感じました。大学在学中に絶対協定留学の制度を利用して留学したいと思っていたので、1 回生の頃から説明会などには参加していました。

②　留学を目指してから出願までの英語学習方法

私は、TOEFL-ITP の点数と IELTS で出願しました。勉強方法は、TOEFL-ITP の問題集（リーディング、リスニング、文法、iBT の単語帳の 4 冊）を繰り返し解きました。よく言われる事ですが、解き終わってすぐ次の問題集を買うよりも、一冊を完璧にする勢いで繰り返し解く方がよっぽど力がつくと思います。あとはたくさん洋画を見たり、歌詞を見ながら洋楽を聞いてカラオケで実際歌ったり、英語に触れる機会を楽しく増やしていました。

③　留学決定から出発までの準備期間

ビザの申請手続きは、業者に代行してもらわず自分で行いました。ウェブ上で申請をする際、準備しなければいけない資料が多く（それを更にスキャンしてアップロード…）、また全部英語で進めていかなければならないので予想していたよりも大変でしたが、不明な点はエージェントの方にメールで相談し、教えていただいたのでスムーズに進める事が出来ました。自分でやって確実にビザがおりるのか心配でしたが、達成感がありました。とてもいい経験になりましたので、一度頑張ってみられても良いかと思います。ちなみに、代行手数料は 1 万円前後だったと記憶しています。私は 2 週間程でビザがとれましたが、この期間は人によって本当にバラバラだと聞くので余裕がある時に早めにとる事をお勧めします！語学勉強は、洋画を見たり洋楽を聞いたりするくらいで、お金を貯める為バイトばかりしていました。

④　現地到着後

トロントに到着して、入国審査でビザをもらうのに 1 時間程かかりました…。語学学校から大学へ移るシステムなんて普通じゃない！と言われ、根掘り葉掘り色んな質問をされました。ぽつんと残った荷物を取り、外に出るとエージェントの方が私の名前のカードを持って待っていてくださり、車でホームステイ先まで送ってもらいました。到着したのは 23 時頃でしたが、ステイ先のホストはとても温かく迎えてくれました。オリエンテーション前日には一度電車に乗って union 駅から語学語学校まで行ってみたのですが、駅内が工事中ということもあってややこしく、地図を読むのが得意な私も迷いました。3 月下旬でしたが、まだ寒く風が冷たかったです。語学学校初日は、オリエンテーションの後、レベルテストをパソコンで受けました。

⑤　語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

トロントの Kaplan PLI は union 駅から地下道を通って Fairmont Royal York(超高級ホテル)から地上へ出てすぐのところにあります。一階には Tim Hortons というカフェがあり、値段もお手頃なので Kaplan の皆のお喋りの場でした。Kaplan の生徒は様々な国から留学してきているので、たくさんの文化的背景を持っている人と友達になれます！特殊な事といえば､5 月から約 1 か月半トロントの Kaplan では先生によるストライキが行われました。元々教わっていた先生方は皆、朝からエントランス前の道でデモを行っていたので、臨時で雇われた先生が代わりに授業を受け持っていました。その臨時の先生方も数日単位でころころ変わるので、正直なところ勉強にも集中できず迷惑でしたが、ストライキに巻き込まれるなんてこの先の人生でもなかなか無い事だと思うので、これも良い経験だと開き直っていました(笑)

◆授業内容、課題、試験

3 月末から 5 月末までの前半約 2 か月は一般の ESL を受けて､そこから 7 月末までは UFC コースという大学準備コースを受けました。

- ESL

一般の ESL コースでは英語の話す・聞く・読むをまんべんなく学習しました。ESL ではもちろん机に向かって必死に勉強するのも一つの手だと思いますが、私は英語に慣れる為にも、そして様々な国の友達の輪を広げる為にも（これが語学学校に通う人の一番の特権だと思います！）どんどん人と関わって外に飛び出していって欲しいと思います。机に向かう事は日本でもできますが、目で見て肌で感じる事は海外でしかできません。ESL ではクラスの入れ替えが頻繁に行われるので、この期間に友達をいっぱい作っておきましょう！UFC が始まるとクラスメイトはずっと同じです。

- UFC

UFC コースでは、10 分弱のプレゼンテーション、5 枚程度のエッセイの宿題が毎週出されます。大学の授業についていけるようにする為のクラスなので、授業内容の分野はスポーツの事から医療の事まで多岐にわたりました。ESL にいた頃のように自由に使える時間は格段に減りましたので、友達に遊びに誘われても断らないといけない事が悲しく辛かったです。クラスの国籍と人数は日本、韓国、リビアの 15 人でした。UFC の前半期間はストライキ中だったので、臨時の先生が担当していて落ち着いて勉強できる環境ではなかったです。また、マウントアリソンへの合格点の基準が曖昧で、聞きに行っても毎回違う返答をされるので私含め皆困惑していました。しかし、クラスメイトのレベルが高い UFC の約 2 か月間を終えて、英語力、特にスピーキング力とプレゼン力は上がったと思います。

⑥　正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

モンクトン空港から大学まで車で職員の方が送ってくれました。マウントアリソン大学は

空港から車で約 40 分の小さな田舎町にあります。田舎だとは聞いていましたが、本当に街が 1 ブロックで終わっていたのには驚きました。建物内はとても綺麗で、全館 wi-fi が飛んでいました。留学生が予想よりもはるかに多かったです。周辺にはスーパー、薬局、100 均、昔ながらの映画館、入口にパンツが飾ってあるショコラティエ(おすすめです、めちゃ美味しいです)、レストランなど最低限生活できるものは揃っています。

◆履修科目

・PSYC1001　Introduction to Psychology I

この授業はマウントアリソン大学に心理学の有名な教授がいる、心理学にとても興味がある、という理由で絶対にとりたかった授業で、生物学的、科学的など様々な側面から幅広く学びました。専門用語が多く覚えなければいけない量は膨大で本当に苦労しました。また、授業中のスライドは moodle にあげない、写真もとってはいけないというやり方の先生だったので毎授業必死でパソコンにノートをとりました。しかし、大変な分たくさんの知識を身につけることが出来るので心理学に興味がある人にはおすすめします。評価基準は 3 回のテストと心理学実験への参加またはレポートでした。

・FINH2101　Introduction to Art History

西洋の美術に興味があったのでとりました。ルネサンス期から現代までの西洋美術について学び、様々な作品の文化や時代背景を教わりました。作られた作品一つ一つがその時代にあった出来事と密接に関わりあっていてとても興味深かったです。作品名、作者、年代、特徴を全て筆記で書くテストが 2 回あったのですが、50 作品覚えて 5 作品しか出題されず、これもまた覚える量が膨大でした。テストに加え、3 回ほどレポートの提出もありました。どんどん知っている作品が増えて、旅行先では自然と美術館を訪れる回数が増えました。そこで知っている作品を見つけるとかなりテンションが上がりました(笑)

・CLAS2501 Introduction to Archaeology

考古学です。実はずっと取ろうと思っていた授業が今年は開講されないという事で急きょ余っていた中から面白そうなものを選びました。テストは 2 回、レポートも 2 回、グループワークがたくさんある授業です。先生はキャリアウーマンという感じのとても厳しい先生で、留学生だからといって甘く見てくれるなんてことはありませんでした…ので毎時間しゃきっと特に集中して受ける事が出来ました。一番苦労した科目です。授業内では実際にミニ発掘調査を行い、土を掘って記録する作業をしました。

◆授業、レポート、定期試験

授業は月水金 50 分×3 のクラスもあれば、火木 70 分×2 のクラスもありました。とる授業によって大変さや忙しさは本当にバラバラです。なので、履修登録期間に気になる授業は取っておいて、修正期間中に取捨選択すると良いと思います。私は 3 つしか登録しなかったので苦労しました…(笑)

⑦　クラブ、課外活動、ボランティア活動

何も入りませんでした。

⑧　現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

トロントのホームステイ先はマンションで、プールとジムが使いたい放題でした。朝はシリアル、お昼はサンドウィッチを作ってくれたのですが、毎日同じで少し飽きてしまいました…。晩御飯は食べないときはお弁当に入れておいてくれるので融通が利きました。とても優しくて良いホストファミリーだったと思います。

大学の寮は Hunton でした。小さくてこぢんまりした寮です。シャワー室もトイレもきれいでしたが、ミールホールまでは少し遠い点が寒くなってくると辛かったです。ミールホールは、毎日色んな種類の料理がでたので全然飽きませんでした。味も美味しかったです。日本人向けのお米もあるのでふりかけなど持って行っても楽しめます。

⑨　長期休暇の過ごし方

語学学校から大学までの間丸 1 か月休みがあったので、旅行しまくりました！ケベック、モントリオール、オタワ、アルゴンキンに友達とドライブして行ったり、夜行バスでニューヨークやワシントン DC に行ったりしました。旅行先では、ホテルではなく Airbnb というサイトを使い現地の人の家に泊まりました。ホテルよりも安くて、しかも現地の居の文化も体験出来るのでとても貴重な経験になりました。初めてのアジア人のゲストを迎える、という方がたくさんいて、私の言動や行動一つ一つがアジア人の印象になるのかと少し緊張しましたが、みなさんフレンドリーに迎えてくれました。

⑩　留学期間中の就職活動の取り組み

ボストンのキャリアフォーラムに参加しました。勉強が忙しく、充分な事前準備はできなかったですが、たくさんの日本企業がボストンに集まるので何か新しい経験ができればな、という気持ちで参加しました。実際、様々な優良企業を新しく知ることができ、また留学中に自分自身や帰国後自分の進みたい道についてなど、一度しっかり考える時間を持てたので参加して本当に良かったと思います。

Ⅱ．留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

なんといっても、普通に日本で過ごしていては出会えない様々なバックグラウンドを持った人と友達になれたことです。16 か国以上の人々と関わって色んな深い話をしたことは大きな財産となりましたし、世界中に訪ねる友達がいるのは本当に素敵な事だと思います。また、留学中暇を見つけては色んな場所に旅行しました！そこで出会った人々、感じた文化の違いなど、自分が今まで見たり聞いたりしていたことはとても小さくて狭い世界の出来事で、世界には知らない事が数えきれないほどたくさんあって、もっと自分の知らない色んな世界を見てみたいと強く感じるようになりました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

苦労した事は、やはり勉強です。やってもやっても終わりません(笑)いくら興味があるとはいえ、未知の分野を英語で学ぶ事はとても挑戦的で、何度もくじけそうになりました。ネ

イティブの友達の 3 倍位は時間をかけて勉強しているのに点数は私の方が低かった時は、努力が報われない気がして正直辛かったです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

異文化の人間同士が一緒に生活するなか、ベッドの中にも靴のまま、逆に靴下のままどこへでも行く、トイレは流さない、など幾度となく驚かされる事はありました。ですが郷に入っては郷に従え精神なので、そんなにストレスに感じる事はありませんでした。フランスのテロが起こった時、私はニュースの影響か、ただ pray for France サイドの考えでしたが、イスラム教徒の友人は全く違った角度からそれを見ていました。TV だけを鵜呑みにはできないと強く感じた瞬間でした。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

大学が田舎にあったことは長所でもあり短所でもあります。良かった点としては、小さな街なので皆が親切で、またする事もないので勉強に集中できる点です。一方、周りに何も無いので、息抜きしたくてもできる場所がありません。辛いです(笑)また、留学生がとても多いです。様々な国から留学生が来ていますが、日本人も多かったです。

② 日本から持っていって、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは絶対いります。私は図書館や外で勉強したりレポートを書いたりする事が多かったので、大きなパソコンを持ち運ぶのに苦労しました。これから買われる方は、小さくて薄いものを買う事をおすすめします！日本の筆記用具は大人気でした。シャンプー等はカナダのものを使う方が向こうの水にあっていてなのか、髪の調子がよかったです。生理用品も、肌に合うか心配だったので大量に持っていきましたが、私は外国製のものでも全く問題ありませんでした！色んな日用品を日本から持っていきましたが、カナダにも DOLLARAMA というダイソーのようなお店がいたる所にあるので基本的なものはだいたい安く調達できます。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

もちろん 4 技能全て向上したと思いますが、特に speaking と listening は留学を経験し伸びたと思います。帰国後受けた TOEIC も 100 点以上上がっていました。

私の留学の目標は「色んな所に飛び出して、色んな人に出逢う」ことでした。限られた時間の中で少しでも多くの人に出会えるよう多国籍国家のカナダを選びました。約 9 か月間の留学を通して、本当にたくさんの尊敬できる人達に出会い、彼らと深く話し合った経験は一生忘れません。

また、留学を終えて、思うように行かないことやくじけそうになったことも沢山あり、少々の事では動じなくなったかなと思います。あとは、何においても悩んだらとりあえず挑戦する人間になりました。自分の目で見て、直接肌で感じたものはただただ聞いたり読んだりしたものとは全く違うと強く思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学中は悲しいこと、辛いこと、楽しいこと、など感情が大きく揺れる事がたくさんあります。はっきり言って楽しいことよりも辛いことの方が多かったかもしれません。しかし、留学はどんな小さなことでも自分自身への気づきや変化を与えてくれます。そして９か月間の留学を終えた今、本当に留学してよかったと思えます。もし迷っているなら、絶対に行ってください。点数が足りないなら、意志を持ち続けて必死で勉強してください。努力した結果はきっと自分に返ってくるし、これからの自分の財産となります。留学を通じて皆さんが成長する事、留学してよかったな、と思えるだろうことは保証します。応援しています！

Ⅳ．将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

留学前から帰国後就職活動をするつもりでしたが、自分のやりたい事、就きたい職種は定かではありませんでした。しかしこの留学を通じて、改めて自分は何も知らないと気づき、やはり自分はもっと人と関わりたい、色んな考えを知りたい、そして影響を与えたい、もっと知らない土地に行ってみたいと思うようになり、今は自分のやりたい仕事の方向性が明らかになっています。そのように強く思えるようになったのもおよそ９か月間の海外生活において本当にたくさんの人との出会いと別れを経験したおかげであり、その中で体験した一つ一つの感情が今日の私を形成しているのだと思います。なので、これからも様々な事に興味関心を持ち続けどこへでも飛び出して、たくさんの知らない世界を知りたいと思います。

Ⅴ．写真

日本に帰国する前に韓国の友人と南米コロンビアへ！
真っ青なカリブ海を泳いだり、服のまま川に飛び込んだり、サルサを踊ったり。行く前は

治安が悪く危険なイメージが強かったですが、やっぱり自分の目で見ないと分からないことって沢山あると気づきました。コロンビアのスーパーフレンドリーであったかい情熱的な人々との出会いは一生忘れません！

色んな場所に車を借りて一緒に旅行したトラベルメイトです！将来またいつか彼らとどこかへ一緒に旅行します。もちろん車で！(笑)

ハロウィンパーティです。同女の先輩と一緒に「ウォーリーを探せ！」をしました(笑)
皆本格的に仮装しているのですごい盛り上がりでした！！

2015 年度（春ｽﾀｰﾄ・１年）
Mount Allison University

A. S.　英語英文学科・３年次

Ⅰ. 留学レポート

①協定留学を目指した理由

洋楽や洋画に夢中になりだした中学３年生のころから海外に憧れていて、そのころから海外に住んで日本では体験できないようなことや日本と海外の違いなど体験してみたいと強く思っていました。協定留学するまで海外に行った経験といえば、高校生のときにハワイに家族旅行で行っただけでした。本当はそのとき、家族でのハワイ旅行かオーストラリアにホームステイかという選択肢を親から与えられていました。もちろん、そのときもオーストラリアにホームステイしたい気持ちもありましたが、この機会を逃すともう家族で海外旅行する機会がないと言われ、家族を置いて一人で海外に行きしたいことするより家族みんなで楽しみたいと思い、その時は留学をあきらめました。なので、大学では必ず留学をしようと心に決めていました。せっかくの留学ですし、できるだけ長い期間留学して英語力を伸ばしたいと思い、同志社女子大学に入学してからずっと協定留学しようと思っていました。

②留学を目指してから出願までの英語学習方法

ずっと留学したいしたいという強い思いはあったのですが、実際にその夢を実現させるために行動に移したのは留学する半年から１年前くらいでした。無意識にまだ大丈夫、時間はあると思ってしまっていました。しかし、１年留学できる最後のチャンスが近づいてきたときに、自分がその夢を叶えるために大した努力をしていなかったことに気づき、焦りを感じました。それまでは TOEFL の勉強もマイペースにしていたのですが、焦りを感じてからはその勉強にも一生懸命力を入れて勉強しました。また、留学先に関しても、そのときまであまり深く考えたり調べたりしていなっかったこともあり、あとで少し後悔することになりました。

TOEFL の勉強以外にも大好きな洋画や海外ドラマを繰り返し見て実際に使われる英語のフレーズなどを勉強しました。他にも私は英語でチャットするのが大好きなのでスマートフォンのアプリケーションなどを使いながらネイティブイングリッシュスピーカーと話し、実際に彼らが使うスラングなどを学んだりしました。楽しみながらできるので、こういうことが好きな人にはいい勉強法だと思います。

③留学決定から出発までの準備期間

１１月の初めごろに合否結果が発表され、それからいろいろな書類を提出したりしなければいけなかったりして少し忙しかったです。一番やきもきしたのはビザの取得です。業者に頼めば自分の代わりにビザ申請して取得してくれるとのことでしたが、結構それまでの留学生は自分で申請しており、そこまで大変ではないと聞いたので自らビザ申請することにしました。いろいろ必要な書類があったり、銀行で口座残高証明書を発行してもらわなければならなかったりして時間がかかり、私はかなりギリギリになったので、申請完了の

知らせが届くまでハラハラしていました。特に口座残高証明書は発行してもらうのに１週間くらいかかるので、ビザ申請する際は本当に早め早めに必要書類を用意するべきだったと思います。
あとは英語の勉強も出発直前までしないといけないと思っていました。出発１か月前まではアルバイトで忙しくしていましたが、辞めたあとはなるべく友達と会ったり、ホームステイ先のご家族に渡す日本のお土産を探し回ったりしていました。荷物を必要最小限にするために何を持って行き、何を置いていくのかパッキングに悩まされてもいました。

④現地到着後

同じところへ留学する友達と一緒のフライトでした。現地の空港に着くと、そこで私たちの名前が書かれている紙を持ったエージェントの方と会いました。その方に簡単にトロントのことや語学学校のことなどを教えてもらいました。そのあとトロントの地下鉄、バスそしてストリートカーに乗る際に必要なトークンというものを購入し、私たちの各々のホームステイ先まで車で送ってもらいました。道中、これから４か月お世話になるホストファミリーに会うということでとても緊張していたので、空港からホームステイ先までどれくらいの時間がかかったかは覚えていませんが、着いたときには９時頃でした。ホームステイ先の子供たちはすでに寝ており、そのときリビングにいたホストファザー・マザーとホストマザーの妹さん夫婦に挨拶し、その夜はゆっくり部屋で休ませてもらいました。土曜の夜に着き、翌日の日曜日に語学学校までの行き方をホストマザーに教えてもらい下見に行きました。家近くから出ているバスは地下鉄の駅の中まで入ってくれるので迷うことはありませんでした。語学学校も駅から歩いて数分なのですぐに見つけることができました。登校日初日は、一応早めに家を出て３０分前くらいに学校につきました。必要な書類にサインして説明を受け、レベル分けテストを受けました。その日にたまたま隣に座っていた子と仲良くなり結果的にトロントで一番の友達になりました。
それからエージェントの方にお邪魔させてもらってトロントのことや危険地域、携帯のことなどについて話を聞かせていただきました。トロントにも危険地域は少しありますが、基本とても平和でした。私が滞在している間に危険だと感じたことはほとんどありませんでした。携帯に関しては、自分が日本から持ってきたスマートフォンを飛行機モードで wifi 接続して使っていました。地下鉄のダウンタウン周辺の駅やカフェ、ファストフード店やショッピングモールなどには wifi があるのでわりと便利でした。それでもダウンタウンから少し離れた駅で友達と待ち合わせするときなどに不便さを感じたので現地到着して１か月後には現地で月２，５００円ほどの電話とメールだけ出来る携帯電話を購入し使っていました。やはり、どこでも連絡できる手段があると本当に便利でした。
また、トロントの地下鉄、バス、ストリートカーは TTC という一つの会社が運営しており、マンスリーパス１つ（約１４，０００円/月）で１か月それら３つの交通機関が使い放題となって便利でした。

⑤語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境

語学学校はトロントで一番大きな駅があるビルの６階と７階にありました。１階にはカナダで大人気のカフェ、Tim Hortons があり多くの生徒や先生たちも休み時間や授業前後に飲み物や食べ物を買いにきたりしていました。

教室はだいたい２０人くらいが入れる大きさでした。６階にも７階にもラウンジには飲み物と食べ物の自動販売機があったりレンジやシンクなどがあり多くの生徒はそこでお弁当を温め食べてお弁当箱を洗ったりしていました。パソコン室もそれぞれの階に一部屋ずつあり、そこで授業や毎週行われるレベルテストが行われていないときは自由に使用可能で便利でした。

放課後は友達とご飯を食べに行ったりカフェ、美術館、公園などに行きました。毎週火曜日には映画が８００円くらいなので英語の勉強がてら観に行き、そのあとは毎週火曜日手羽先が半額になる St.Louis に行きそこでよくご飯を食べたりしていました。

◆授業内容、課題、試験

最初の１か月半くらいは通常の Intensive English Course を受けていました。最初のクラス分けのテストで思っていたより上のクラスに入ることができました。最初は戸惑い緊張して不安ばかりでしたが徐々に慣れていき、次第にクラスに行くのが楽しくなりました。クラスではリスニングやリーディング、ディスカッションもよくしました。課題ではよくライティングをしました。毎週金曜日にはクラス後半でゲームをしたりして本当に楽しかったです。先生もとても面白くかわいい人でみんなその先生が大好きでした。

そのあと５月の後半からは大学に行くために必要不可欠な Universtiy Foundation Course を受けました。本当にハードなコースでした。毎週エッセイ一つとプレゼンテーション一つが課せられました。リーディングとライティングのクラスでは、まず単語を勉強して周りに座っている人と辞書を使わずにそれらがどういう意味なのかを文脈から考えたり、テキストを音読して何を言っているのかまとめたりしました。だいたい週に１回のライティングは先生に課せられたテーマに沿って８００字か９００字くらい書きました。リスニングとスピーキングのクラスではプレゼンテーションするにあたって意識するべきところや注意すべきところ、エッセイはどのように書くとよりよくなるかなどを教わりました。私ははじめプレゼンテーションが苦手でした。同女ではパワーポイントを使うプレゼンテーションをあまりしてこなかったので、最初のプレゼンテーションの際パワーポイントを使わなかったのですが、他の人たちはみんな使っていて、使った方がより良くなると気付き、それ以降は毎回より見やすくなるようにパワーポイントにも気を遣うようになりました。最初は声も小さく台本を読みながら話しているようなものだったのでアイコンタクトもままならなかったのですが、回を追うにつれて台本を見なくてもプレゼンできるようになり、声も大きくなりその成長に気づいたときは本当にうれしかったです。プレゼンテーションするときに、以前ほど緊張しなくなりました。

通常はエッセイもプレゼンテーションも５段階で評価されますが、５週目の中間と１０週目のファイナルはそれぞれ１５段階で評価されて単語とショートエッセイのテストもありました。このコースに受からないと大学にはいけないということだったので、このコースの時は本当にストレスが溜まっていたと思います。それでも、このコースを終え無事に合格したときの達成感といったら言葉にできないくらいでした。頑張ってよかったと本当に心から思いました。最初は毎週エッセイとプレゼンテーションをしなくてはならないと聞いて怯えていましたが、今思うと様々なことをこのコースで学ぶことができたし、エッセイのスキルもプレゼンテーションのスキルも確実に上がっていると思うので感謝しています。一生忘れないと思います。
このコースを受けている間は本当にそれまでと比べ忙しくなったので、友達と出かける機会が明らかに激減しました。それは悲しかったですが、１週間頑張ったあとに週末友達と飲みに出かけたりしてオンとオフで切り替えていたのでそれを楽しむこともできました。

⑥正規科目履修期間

私の留学先大学 Mount Allison University は本当に小さな小さな町にあると聞いていました。実際に行ってみると本当に小さくて驚きました。空港から車で学校まで送ってもらう道中も目に入ってくるのは自然の風景ばかりで、外を見続けていても緑の木しか見えませんでした。それでも、学校付近には生活に必要なものが揃うスパーマーケットやドラッグストアなどあったのでその点では私の想像よりマシでした。大学に来て 1 週間オリエンテーション期間中に一度バスで 40 分ほど離れたモンクトンという町にあるショッピングモールに買い物に行きました。やはりショッピングモールは買えるものも買い物満足度も違うなと思い、その後も 2、3 回ほど友達とタクシーを利用し買い物にいきました。
本当に大学のまわりに何もないかといえばそういうわけでもなく、非常にきれいな橋がたくさんある Waterfowl Park という公園があります。そこは本当にきれいで落ち着いていて私と友達はその場所を気に入って在学中に 5、6 回ほど散歩がてらに写真を撮りにいきました。特に雪がたくさん降り積もったあとの Waterfowl Park は最高でした。ぜひ行ってほしいところです。

◆履修科目

５科目まで取れますが、リーディングの量の多さに慣れていなかったことも考えて３科目だけ取ることにしました。

・ANTH-1011-A　Introduction to Anthropology

人類について学びます。様々な民族について学んだり、いろいろな種類の結婚や親族関係、スポーツ、アートなどについて勉強します。

・LING-2001-A　Introduction to the Study of Language

これは英語について細かく学びます。動物が英語を理解できるのか、赤ちゃんの頃からどのように人は英語を第１言語として学んでいくのか、第２言語としての英語や英語の方言など英語の文の構成や発音などに関しても学びます。

・PSYC-1011 Introduction to Psychology I
この心理学はイントロなので、一般的にいう心理学というよりかはもっと心理学の基礎となる部分を学びました。脳のそれぞれの部分の働きや記憶に関することなどを勉強します。

◆授業、レポート、定期試験

海外の生徒の多くはパソコンでノートをとると耳にしていましたが、実際にパソコンでノートをとっていたのはクラスの半分以下くらいでした。中にはパソコンでノートをとられることを嫌う教授もいました。インターナショナルの生徒は期末試験には多くのクラスで辞書を使用出来たりカナディアンの生徒よりさらに多くの時間をもらえたりしました。

・ANTH-1011-A　Introduction to Anthropology
週に３回の講義でした。評価のされ方は中間試験２回と期末試験、それにプラスで A.インターネットでの数回のクイズか、B.指定されている本から一つ選んで書くエッセイ、C.セメスターの後半から始まる金曜日にチュートリアルを受けるという 3 種類から選ぶことができました。つまり、C を選ばない私たち学生は、セメスター後半は週２回の講義だけでした。授業では先生の講義を聞き、まわりに座っている人と自分の意見を話して発表したりビデオを見たりしました。中間試験は 10 月に１回と 11 月に１回で、期末試験は 12 月でした。ほとんど選択問題で２、３個ほどショートエッセイがあります。試験は授業で使われるパワーポイントはインターネットで見ることが可能なので教科書と合わせながら勉強するといいです。

・LING-2001-A　Introduction to the Study of Language
この授業は一番大好きでした。この授業をとる前まではそんなに自分が言語学に興味があると思わなかったのですが、この授業をすごく楽しめてそれに気づきました。2 年生からの授業です。週に 2 回の講義を受け、５、６個くらいエッセイのようなものがありました。そのいずれも、楽しいもので一度はクロスワードパズルを作ったりしました。楽しみながらも語彙力が増えたのでいい課題だなと思いました。試験は１回の中間試験と期末試験があります。どちらも授業で使用したプリントや資料、先生の言ったことをカギに勉強すれば大丈夫です。テキストは授業前に予習する際リーディングに使うだけで、授業では先生が前もってサイトに載せてくれるものを図書館などで印刷してそれに先生が追加したいことや自分で大事だと思ったことを書き込んで使用していました。

・PSYC-1011　Introduction to Psychology I
週に 3 回の講義です。予習してきたテキストに沿って先生がパワーポイントを使用して講義してくれます。わかりやすい例などを挙げてくれて理解しやすかったです。また、講義を受けている学生もその話題に上がっていることに関して思うことなどがあれば自ら挙手して発言したりしています。このクラスの評価方法は中間試験と期末試験です。エッセイなどはありません。試験内容は教科書から出ます。こちらの試験もほとんどは選択問題で構成されていますが 2、3 個ほどはショートエッセイの問題もあります。

⑧現地での住まい

トロントでは最初の４か月ホームステイをさせてもらっていました。ホストファザーはギリシャの方でホストマザーは日本と中国系カナディアンのハーフで日本語も少し話せる方です。７歳の男の子と９歳の女の子がいて、２人ともフレンドリーで、かわいくて疲れて帰ってきたときは特に癒されました。朝ごはんはシリアル、紅茶、バナナなどでお昼ごはんはサンドウィッチ、水、時々チョコレートなどです。夜ご飯はいつもいろんな国の料理が出されます。いつもホストファザーがご飯を作ってくれのですが、本当に料理上手でいつも本当においしいご飯をいただいていました。パンやケーキ、クッキーなども作って出してくれたりして、もちろんそれらも最高においしかったです。友達とご飯を食べに行くことが多くなったときもありますが、それでも家でご飯を食べるときはいつも楽しみでした。ホームステイ先にはホストマザーの姉妹夫婦や友達夫婦がよく来ていてみんなで夜ご飯を食べたり、天気のいい休日にはお庭でお昼ごはんを食べたりしました。部屋の掃除や洗濯までよくしていただいて本当に感謝でいっぱいです。今でもときどきとても彼らが恋しくなります。
彼らはたいていいつも日本人の女の子を受け入れているようでとても慣れていた感じでした。基本的に自由で門限はないし、シャワーもいつでも使っていいし、外泊も大丈夫で、ごはんがいらないときだけ早めに伝えるという感じでした。
大学に移ってからは、寮でした。入りたかったミールホール近くの大きな寮には残念ながら入れなかったけれど、綺麗な新しめの寮 Bigelow に入れました。他の寮の部屋の電気は黄色かったり暗いところもありましたが、私の寮は白い電気が２つもあるので明るくて過ごしやすかったです。ただ、他の寮にはシャワールームがワンフロアに５個も６個もあったりするのに、私の寮は２個ずつしかなかったです。それでも、なぜかいつ入ってもシャワールームが空いてないということはなかったです。私の寮は強制ではなかったのですがたいていの寮には１週間か２週間もしくは１か月に１回ハウスミーティングというものがありました。平日はたいてい静かですが、週末になるとパーティ寮と言われていない私の寮ですらパーティ寮かと疑うくらいにぎやかになります。ちなみにパーティ寮と言われている Widsor という寮もどこもかしこもうるさいというわけではなくて、場所によってはうるさくないところもあるそうです。

⑨長期休暇の過ごし方

７月いっぱいで語学学校を卒業して、８月はほぼ１か月休みでした。私はあまり大きな旅行はしませんでした。インターナショナルの生徒用のイベント会社 ISX を利用して、２泊３日で友達とフレンチカナダと呼ばれているオタワ、ケベック、モントリオールにバスで行きました。そこであまり予想にもしていなかったのですが、新たな友達もできました。モントリオールは特に美しかったです。あまり時間に余裕がなかったのでまた機会があれば行きたいです。有名なサンドウィッチを食べるために長い列に並んだり船に乗ってきれいな島を見たり、本当に楽しい時間を過ごしました。
あとは、それまであまりしていなかったトロント観光をしました。いろんな観光所を巡れ

るシティパスを友達と買って、美術館や CN タワーなどに行きました。トロントの観光地を巡り、改めてトロントの良さに気づきました。あとは天気のいい日に友達とトロントアイランドでバーベキューをしたり、炎天下の中で行われた BLUE Jays というトロントの野球チームの試合を見に行きました。
大学を終えてからは、大学で仲良くなった友達とビール工場を訪れたりして楽しみ、その友達がトロントを去ってからはトロントで会った友達のところにお世話になって、ほかの友達にも再会したり、クリスマスにはナイアガラの滝に行き、その偉大さに圧倒されました。本当に楽しい日々を過ごせました。

⑩留学期間中の就職活動の取り組み

大学の授業についていくことに必死で就職活動に関してはほとんど取り組んでいませんでした。

Ⅱ．留学の感想

①留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中楽しかったことは山ほどあります！本当に本当に留学は楽しかったです！！最も思い出に残っている人はトロントで語学学校初日に友達になった韓国人の子です。最初はすごく一方的に話しかけられ、正直「この子誰？なんでこんなに話しかけてくるんだ？」と思っていました。でも、それからお昼ごはん食べるときも放課後も常に一緒にいるようになり、だんだん仲が深まって、今では大事な親友です。彼女がいたからトロントをあんなに楽しむことができたと思うし、彼女を通して本当にたくさんの素晴らしい友達にも出会うことができました。留学中一番うれしかったことの一つは間違いなく彼女に出会えたことです。初めて映画を一緒に見に行ったり、放課後はいつもカフェでおしゃべりしたり、週末は飲みにいったり、たこ焼きパーティーをしたり、花火を見に行ったりしました。思い出深いのは、プライドパレードを見に行ったことです。ゲイやレズビアンなどの方たちをサポートするパレードです。ダウンタウン周辺で行われるとても大きいなイベントです。最初はわけもわからず行ったのですが、始終そこにいる人たちみんなが笑顔で楽しそうなのです。もちろん私も楽しんでいました。みんな本当に心からの笑顔という感じで、そのとき心からトロントはなんて平和で愛に満ち溢れた町なのだろうと思いました。本当にトロントに留学できて心から嬉しいと思いました。

②留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

普通にカナダで暮らす分には何も苦労することはなかったのですが、語学学校で UFC に入ってからは本当につらいというか苦労しました。もともと私がなんでもギリギリにするところがあるのでそれも悪いのですが、今まで生きてきてあんなに毎週毎週エッセイやプレゼンテーションに追われる日々を過ごしたのは初めてでした。エッセイはまだしも大の苦手なプレゼンテーションに関しては最初のころは本当に逃げ出したくなりました。だけど、それを終えて今思うのは、それが私を成長させてくれたということです。今ならプレゼン

テーションすることも億劫にならないと思います。

③文化・習慣などの違いで驚いたこと

文化の違いなどで驚いたことはたくさんあります。一番驚いたのはホームレスの多さです。彼らはあらゆるところにいます。ショッピングモールの前や飲食店の前、通りの端、駅などです。ときどきピザ屋さんやカフェで食事するとお金をくれとそれぞれの客に言ってくる人もいました。最初はとても驚いたけれど、だんだんそれが当たり前のように感じるようになりました。

他には、バスや地下鉄では赤の他人に普通に話しかけて仲良くなったりすることや、ATM がぼんっとそのまま通りにあること、犬を飼っている人が多く地下鉄やバスでも見かけることです。自転車を持ったまま地下鉄やバスに乗れます。地下鉄は何かしらの問題で結構動かなくなるし、その代わりに多くのシャトルバスが駅から出ます。平日の夕方は交通渋滞が当たり前なのでバスに乗るより歩く方が早かったりもします。以上のように日本とカナダには違いがたくさん見受けられますが、別にカナダでされていることが日本で非常識ということでもないので受け入れやすいです。

Ⅲ．留学希望者へのアドバイス

①留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、やはり教授との近さです。授業でわかりにくかったところ、理解できなかったところ、もっと詳しく説明してほしいところなどがあれば、教授のオフィスにまで聞きに行けば丁寧に教えてくれます。インターナショナルの生徒に慣れていることもあるからかとても優しく接してくれます。日本人が少ない授業だと、理解できなかったところはないかなどと教授から聞いてきてくれることもあります。気にかけていただいて本当にうれしかったです。

悪かった点は、ミールホールのメニューが週 1 くらいで同じようなものが出ることです。時間も決まっていて、土・日曜日の朝早くからは簡単なベーグルやパンなどしかないことです。もう少しレパートリーを増やしてくれたり、開けている時間を増やしてくれたらいいなと思いました。

②日本から持っていて、特に役に立ったもの

パソコンは必須です。語学学校でもエッセイを書いたりするのでパソコンがないとわざわざ学校まで行かないといけないけど、パソコンがあればどこでもできるので。特に薄くて持ち運びやすいアップルのパソコンなどがいいと思います。自分が持っているパソコンは重く、持ち運びにはあまり向いていませんでした。UFC のときに授業中にエッセイやプレゼンテーションの準備をしてもいいからと言われても、学校にはもっていけず不便だったので持ち運びに向いているものがベストです。

ポケットティッシュも本当に便利でした。日本のように無料で配っていることはないですし、カナダでも買えますが、わざわざ買うこともないと思うので持っていくといいと思い

ます。あとは、クレジットカードかデビットカードはマストです。カナダではほとんどの人はカード払いですし、現金を持ち歩くよりいいと思います。私は海外のどの ATM でもお金をおろせるデビットカードを持って行ったので本当に便利でした。

③語学力の向上等、留学の成長、留学前と変わったこと

留学中にさんざんエッセイを書き、毎回弱点など改善すべきポイントを教えてもらったりしたのでライティングのスキルは間違いなく上がったと思います。もともとエッセイを書くことはどちらかというと好きなのですが（テーマにもよります)、カナダで書けば書くほど楽しさも見つけられるようになってきました。それでもまだまだ改善点は多く残っているのでこれからまた大学で磨きたいと思います。何よりも、飲みに出かけた際などに現地の人たちと話す機会があり、英語で楽しくコミュニケーションをとるという体験を通してリスニングやスピーキングのスキルが上がったと思います。

また、留学前だと一人で飛行機に乗ったり、道に迷ったときも自分から通りがかりの人に聞いたりすることはできなかったのですが、現地ではそういう経験もし、英語で自分から話しかけることもありました。人見知りで積極性に欠けていた自分も少しは成長できたかなと思います。

④これから留学しようと思っている後輩へのアドバイス

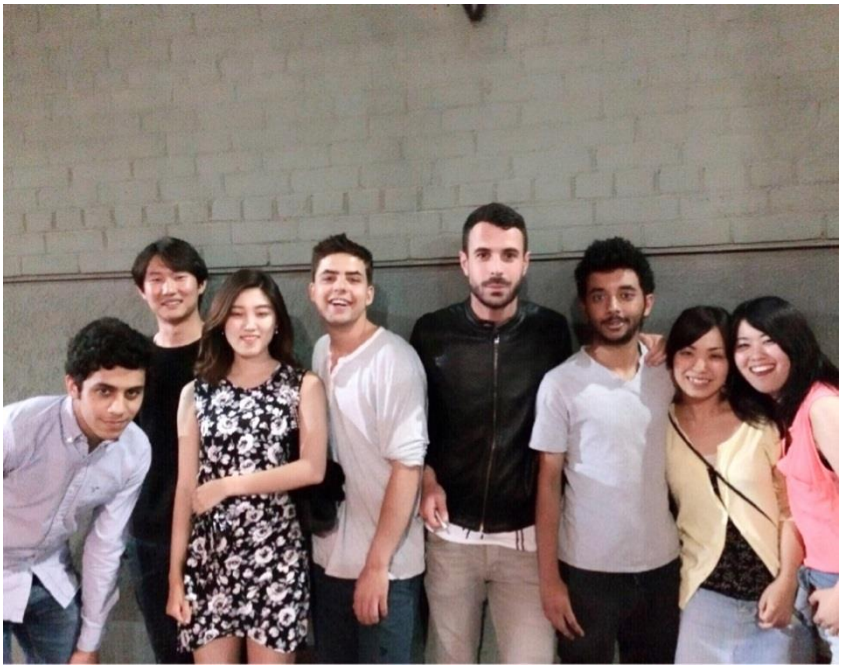
もし少しでも海外留学したいと思っているならぜひ留学してください！世界を見る目も変わるし自分も変われます。未知な世界をみてください。英語学習のためだけではなく、日本では体験できないようなこと、見ることができないようなことを体験してください。私は以前までは、誰かがいないと何もできず、いつも誰かに頼っていました。私の親も、私が一人で１年も海外で暮らすなんて絶対無理だと言っていました。だけど、できました。正直な話、余裕でした。知っている人がいない、知らない土地に一人で住むなんて無理だと思っていたけれど、大丈夫でしたし、私はむしろもっと長い間カナダに住んでいたいとすら思いました。やってみないとわからないんです！無理と今思っていることでもやってみないとわからないです。もしかしたら余裕かもしれないし、もしかしたらやっぱりできないかもしれない。だけど、結果無理でも挑戦したことに意味があると思うのです。その過程で何か人生において素晴らしいことを見つけられるかもしれません。大切な何かに気づくかもしれません。だから、もし少し不安があっても挑戦してみてください。

Ⅳ．将来の目標

①今後の進路、将来の目標・夢

まだはっきりとはわかりませんが、確かなのはやっぱり自分は英語を通していろんな国の人と話しをすることが大好きだということです。この留学を通して、このことに改めて気づくことができました。なので、将来は何か英語を使った仕事に就きたいと思っています。また、いつかは海外に住みたいと思っています。

Ⅴ．写真



語学学校で知り合った友達のお別れ会で！
この時期は友達がたくさん帰国しちゃって寂しかったです。

大学のハロウィンパーティ！
みんないろんな衣装をきていて面白かったし本当に楽しかったです！！